令和 6 年度実施状況調査報告書（スポーツ振興くじ助成）

■活動概要

助成団体	北海道苫小牧市
事業細目名	国民体育大会冬季大会競技会場整備
事業名	苫小牧市白鳥アリーナ音響設備等更新事業
助成金額	71,226,000 円

令和 5 年度国民体育大会冬季大会競技会場整備助成を受けて、屋内アイスアリーナスケートリンクの設備更新を行った北海道苫小牧市に対して調査を実施しました。

苫小牧市白鳥アリーナは、観客席約 4,000 席を有する屋内スケートリンクを中心としたスポーツ施設です。平成 8 年の開設以来、市内に複数あるスケートリンクの中でも中核的な施設として「氷都」苫小牧の氷上競技を支えてきたとのことです。令和 6 年 1 月から 2 月にかけて行われた第 78 回冬季国民スポーツ大会のフィギュアスケートとアイスホッケー両競技の競技会場に決定したことから、安全で円滑な大会運営の実現を目的に設備の更新が行われました。

■助成の意義

大会を開催するにあたり、設置から 25 年以上が経過し老朽化していた館内音響設備と製氷車の整備が必要という判断に至ったそうです。特に音響設備については、過去のフィギュアスケート大会に際に、競技中の音楽が止まってしまうといった深刻な問題が発生するなど対応が必須の状況だったとのことです。

スケートリンク内全体の音響設備を更新したことにより、トラブルなく競技を実施し大会を進行することができたとのことです。また、競技者からは更新前よりもクリアに聞こえる音楽の中で集中してパフォーマンスができたとの感想も聞かれたそうです。製氷機についても、製氷作業中の故障発生の懸念を払拭できたことから、円滑な競技進行に大きく貢献したとのことです。

■事業効果を高めるための取り組み

白鳥アリーナは nepia アイスアリーナの愛称でも地域住民に広く知られており、冬季国スポ終了後も変わらず、地域のアイススケート場として幅広い年代と競技レベルの方々に利用され、地域のアイスホッケー、フィギュアスケートの普及・発展に貢献しています。また、昨今の温暖化の影響で屋外施設での製氷作業が難しくなってきている中で、安定した氷質を提供できる白鳥アリーナの需要が今後高まってくることが想定されるそうです。市では、今後も指定管理者と協力し民間の力も借りながら、より多くの方に施設を利用いただけるよう工夫を凝らしていきたいとのことでした。

■所感

調査実施日にはアイスホッケーアジアリーグの開催に向けての準備が進められていました。今後もスケート競技の普及活動から国際競技大会の実施まで可能な施設として利用されていくことが期待されます。

（令和 6 年 9 月 19 日往査）

（写真）スケート場の様子



